

# 平成 24 年 度

## 学生生活調査結果の概要

### まえがき

この「学生生活調査」は、学生の標準的な学生生活状況を把握し、学生生活支援事業の改善を図るための基礎資料を得ることを目的として、平成 14 年度まで文部科学省において隔年に実施されていましたが、平成 16 年 4 月に独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が設立されたことに伴い、文部科学省から日本学生支援機構に業務が移管されました。

このたび、平成 24 年度の調査結果をとりまとめましたので、主に大学昼間部及び大学院を中心に前回調査（平成 22 年度）との比較を行いながら、その調査の概要を説明します。

今回の調査は、前回調査と同様に大学学部、短期大学本科及び大学院の学生（休学者及び外国人留学生を除く）を調査対象とし、各種の条件下における学生の標準的な学生生活費とこれを支える家庭の経済状況、学生のアルバイト従事状況など学生生活状況を把握することを主眼として、全国 2,961,747 人中から 91,349 人を抽出し、平成 24 年 11 月現在で実施したものです。

調査の方法としては、大学・短期大学の別、昼間部・夜間部の別、大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程の別、設置者（国公立）の別に従ってそれぞれ抽出率を定め、サンプル数を算出し、在籍学生数に比例して各大学、短期大学にサンプル数を割り当てて調査を依頼しました。有効回答数は 40,924 人（回収率は 44.8%）で、本文で紹介する資料に掲げる数値は、この標本調査の結果を基礎として、全国の調査対象学生総数についての数値を推定した結果となっています。

学生生活に伴う問題は広範かつ複雑であって、この調査で取り上げたことに尽きるものではありませんが、この調査結果が学生生活に関心を寄せられる方々の参考になれば幸いです。

終わりに、平成 24 年度調査の実施に際し、多大なご協力をいただいた全国各大学及び各短期大学の皆様に深く感謝申し上げます。

独立行政法人 日本学生支援機構  
学生生活部 学生支援企画課  
学生支援調査室

## < 学生生活費等について >

大学教育を受けるのに年間どれだけの経費がかかっているかを知るため、学生生活を送るために不可欠な要素としての学費と生活費を取り上げ、これを学生生活費としてその実態をみることとする。

ここに取り上げた「学費」とは、授業料、その他の学校納付金（入学料や入学時にのみ支払う施設設備費などの一時的納付金を除く）、図書、学用品等に要する修学費、課外活動費及び通学費をいう。「生活費」とは、食費、住居・光熱費、保健衛生費、娯楽・嗜好費及びその他の日常費をいう。（用語の定義、年間収入の取り方等については、後掲の《資料2》調査票の様式及び調査項目の説明を参照）

また、この調査における大学院の「修士課程」、「博士課程」、「専門職学位課程」は次の区分によるものである。「修士課程」とは、(1)修士課程、(2)博士課程前期、(3)一貫制博士課程の前期2年（医・歯・獣医を除く）とする。「博士課程」とは、(1)博士後期課程、(2)一貫制博士課程の後期3年、(3)一貫制博士課程（医・歯・獣医）とする。「専門職学位課程」とは、法科、教職、会計、技術経営大学院などの専門職学位の取れる大学院課程とする。

学生生活費は、大学・短期大学別、昼間部・夜間部別、大学院修士課程・博士課程・専門職学位課程別、設置者別あるいは居住形態別等学生の置かれている条件の違いによって大きく影響されるため、以下、いくつかの基本的な条件について集計分析を行っているが、解説は主として大学昼間部及び大学院について行うことにする。

### 本調査結果における留意事項

1. 四捨五入した数を使用している表では、内訳の数の合計が、合計欄の数と一致しない場合がある。
2. 平成14年度までは文部科学省が調査を実施した。
3. 大学院専門職学位課程については、平成18年度より調査対象とした。
4. 表中の記号は次のように使う。
  - 「-」 計数が無い場合
  - 「0.0」 計数が単位未満の場合
  - 「…」 計数の出現が有り得ない場合または調査対象とならなかった場合
5. 一部の質問に無回答がある調査票は、当該の質問を集計する際には無効票とした。

## 1. 学生生活費

### (1) 年間学生生活費（A表）

年間の学生生活費は、次のようになっている。

#### ① 大学昼間部等

大学昼間部は約188万円、短期大学昼間部は約165万円となっている。こ

れを平成22年度調査と比較すると、大学昼間部で2.7%増、短期大学昼間部で3.8%増となっている。

なお、夜間部の学生生活費は、昼間部に比べ大学で約50万円、短期大学で約49万円低く、平成22年度調査と比較すると、大学で4.1%減、短期大学で4.3%増となっている。

## ②大学院

修士課程は約174万円、博士課程は約212万円、専門職学位課程は約219万円で、これを平成22年度調査と比較すると、修士課程で0.2%増、博士課程で0.4%増、専門職学位課程で2.2%減となっている。

## A表 年間学生生活費

(単位：円)

区 分	大学		短期大学		大学院			
	昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	修士課程	博士課程	専門職学位課程	
学 費	授業料	871,000	460,200	719,000	409,900	598,500	459,000	887,600
	その他の学校納付金	142,700	45,200	217,700	83,200	38,200	19,600	74,800
	修学費	49,100	43,400	57,100	29,000	57,700	126,100	119,300
	課外活動費	42,300	33,000	16,800	9,800	26,800	37,200	16,100
	通学費	70,400	72,400	81,300	57,100	66,900	78,700	70,800
	計	1,175,500	654,200	1,091,900	589,000	788,100	720,600	1,168,600
生 活 費	食費	166,900	166,100	112,600	118,200	243,000	348,800	278,700
	住居・光熱費	192,800	165,200	112,500	107,700	315,100	418,400	298,100
	保健衛生費	44,900	44,800	48,200	40,200	46,200	67,200	50,800
	娯楽嗜好費	139,400	146,100	115,700	123,500	141,500	187,500	127,200
	その他の日常費	160,600	201,100	170,900	179,200	201,800	377,800	270,900
	計	704,600	723,300	559,900	568,800	947,600	1,399,700	1,025,700
合 計	(2.7)	(△4.1)	(3.8)	(4.3)	(0.2)	(0.4)	(△2.2)	
		1,880,100	1,377,500	1,651,800	1,157,800	1,735,700	2,120,300	2,194,300
参 考	平成22年度	1,830,500	1,435,700	1,591,600	1,109,900	1,732,100	2,112,200	2,243,700
	平成20年度	1,859,300	1,412,200	1,580,000	1,076,200	1,742,100	2,053,100	2,222,500
	平成18年度	1,895,100	1,483,000	1,640,200	1,208,300	1,749,800	2,081,400	2,306,000
	平成16年度	1,940,800	1,511,100	1,664,700	1,379,600	1,772,600	2,105,400	...

(注) ( )は、平成22年度調査からの伸び率である。

## (2) 学生生活費の推移 (B表, 第1図)

### ①大学昼間部

学生生活費の前回調査からの伸び率は、平成22年度調査においては1.5%減となったが、今回調査では2.7%増となっている。これを学費と生活費に分けて、それぞれの伸び率をみると、学費は0.5%増、生活費は6.7%増となっている。

### ②大学院

学生生活費の前回調査からの伸び率は、修士課程で0.2%増、博士課程で0.4%増、専門職学位課程で2.2%減となっている。学費と生活費に分けてその伸び率をみると、学費は修士課程、博士課程、専門職学位課程でそれぞれ1.8%減、8.2%減、6.0%減、生活費は修士課程、博士課程、専門職学位課程でそれぞれ1.9%増、5.5%増、2.6%増となっている。

B表 学生生活費の推移

(単位：円)

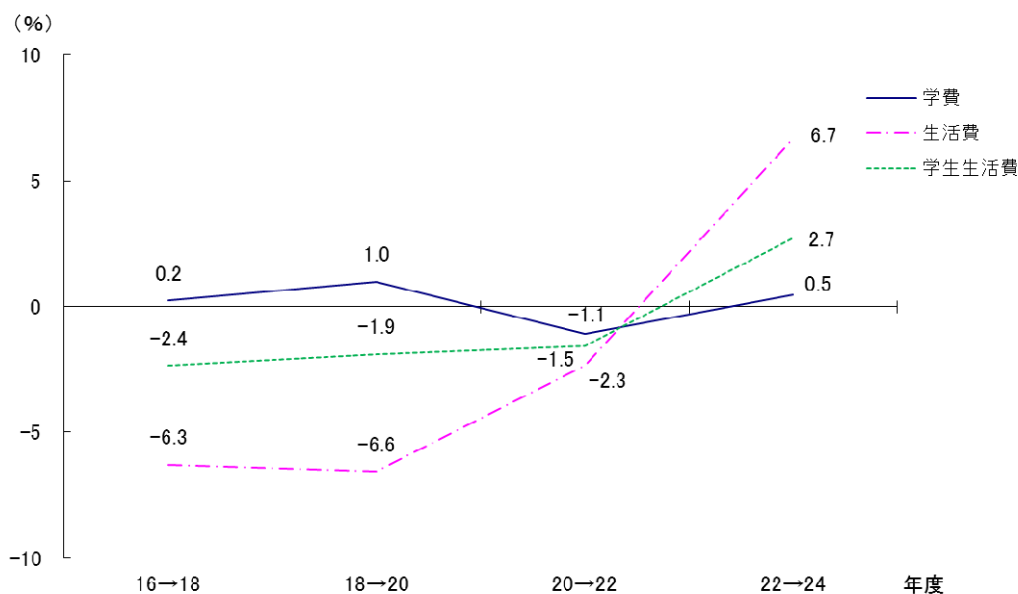
区分	年度	平成18年度	平成20年度	平成22年度	平成24年度	
大 学 部	昼 学 費	授業料及びその他の学校納付金	(1.1)	(1.8)	(△1.5)	(0.2)
		1,008,400	1,026,700	1,011,600	1,013,700	
		修学費、課外活動費、通学費	(△4.8)	(△4.1)	(1.3)	(2.1)
	間 活 費	162,900	156,300	158,400	161,800	
		計	(0.2)	(1.0)	(△1.1)	(0.5)
		1,171,300	1,183,000	1,170,000	1,175,500	
	生 活 費	食費、住居・光熱費	(△5.1)	(△9.7)	(△1.3)	(△5.2)
		426,000	384,500	379,500	359,700	
		日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(△7.9)	(△2.0)	(△3.7)	(22.7)
	費	297,800	291,800	281,000	344,900	
計		(△6.3)	(△6.6)	(△2.3)	(6.7)	
723,800		676,300	660,500	704,600		
合 計		(△2.4)	(△1.9)	(△1.5)	(2.7)	
		1,895,100	1,859,300	1,830,500	1,880,100	
大 学 院	修 士 課 程	授業料及びその他の学校納付金	(2.4)	(0.8)	(△1.2)	(△1.5)
		648,400	653,900	646,300	636,700	
		修学費、課外活動費、通学費	(0.4)	(△4.7)	(0.2)	(△2.9)
	生 活 費	163,300	155,700	156,000	151,400	
		計	(2.0)	(△0.3)	(△0.9)	(△1.8)
		811,700	809,600	802,300	788,100	
	食 費	食費、住居・光熱費	(△4.1)	(△1.9)	(0.0)	(△7.5)
		614,600	602,900	603,200	558,100	
		日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(△3.7)	(1.9)	(△0.9)	(19.3)
	費	323,500	329,600	326,600	389,500	
計		(△4.0)	(△0.6)	(△0.3)	(1.9)	
938,100		932,500	929,800	947,600		
合 計		(△1.3)	(△0.4)	(△0.6)	(0.2)	
		1,749,800	1,742,100	1,732,100	1,735,700	
大 学 院	博 士 課 程	授業料及びその他の学校納付金	(0.6)	(△3.6)	(△1.0)	(△5.4)
		530,100	511,000	505,800	478,600	
		修学費、課外活動費、通学費	(8.2)	(△0.2)	(2.2)	(△13.4)
	生 活 費	274,100	273,500	279,400	242,000	
		計	(3.0)	(△2.4)	(0.1)	(△8.2)
		804,200	784,500	785,200	720,600	
	食 費	食費、住居・光熱費	(△5.5)	(△0.9)	(2.0)	(△7.2)
		818,400	810,900	826,800	767,200	
		日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)	(△0.1)	(△0.2)	(9.3)	(26.4)
	費	458,800	457,700	500,200	632,500	
計		(△3.6)	(△0.7)	(4.6)	(5.5)	
1,277,200		1,268,600	1,327,000	1,399,700		
合 計		(△1.1)	(△1.4)	(2.9)	(0.4)	
		2,081,400	2,053,100	2,112,200	2,120,300	
大 学 院	専 門 職 学 位 課 程	授業料及びその他の学校納付金		(△3.3)	(△3.3)	(△5.3)
		1,085,700	1,050,100	1,015,900	962,400	
		修学費、課外活動費、通学費		(△3.8)	(0.0)	(△9.4)
	生 活 費	236,700	227,700	227,700	206,200	
		計	(△3.4)	(△2.7)	(△6.0)	
		1,322,400	1,277,800	1,243,600	1,168,600	
	食 費	食費、住居・光熱費		(△4.7)	(3.5)	(△5.9)
		621,300	591,800	612,700	576,800	
		日常費(保健衛生費、娯楽し好費等)		(△2.6)	(9.8)	(15.9)
	費	362,300	352,900	387,400	448,900	
計		(△4.0)	(5.9)	(2.6)		
983,600		944,700	1,000,100	1,025,700		
合 計			(△3.6)	(1.0)	(△2.2)	
		2,306,000	2,222,500	2,243,700	2,194,300	
家 計 消 費 支 出 指 数 ( 年 度 )		(△2.5)	(△0.4)	(△2.3)	(0.0)	
		97.5	97.1	94.8	94.8	
消 費 者 物 価 指 数 ( 年 度 )		(0.0)	(1.5)	(△2.2)	(△0.4)	
		100.0	101.5	99.3	98.9	

(注) 1. ( ) は、それぞれ前回調査からの伸び率である。

2. 家計消費支出指数及び消費者物価指数について、平成16年度の指数を100とする。

3. 家計消費支出指数及び消費者物価指数は、総務省家計調査の結果等より算出。

第1図 学生生活費の伸び率の推移(大学昼間部)



### (3) 設置者別の学生生活費 (C表)

学生生活費を設置者別で比較すると、次のようになっている。

#### ① 大学昼間部等

学費と生活費を合わせた学生生活費は、大学昼間部で私立が国立に比べ約41万円高くなっている。これは学費の差によるところが大きい。

短期大学昼間部についても、学費の差によって私立が公立に比べ高くなっている。

また、大学夜間部の場合は、私立よりも公立が高くなっているが、短期大学夜間部は昼間部と同様に私立が高くなっている。なお、夜間部の学費は、昼間部に比べ全体的に低くなっている。

#### ② 大学院

学費と生活費を合わせた学生生活費は、私立が国立に比べ修士課程は約29万円、博士課程は約28万円、専門職学位課程で約47万円高くなっている。

学費は、私立が国立に比べ修士課程で約46万円、博士課程で約30万円、専門職学位課程で約54万円高くなっている。生活費は、国立が私立に比べ修士課程で約17万円、博士課程で約1万円、専門職学位課程で約7万円高くなっている。

C表 設置者別の学生生活費

(単位：円)

区 分			学 費			生 活 費			合 計
			授業料、 その他の 学校納付金	修学費、 課外活動費、 通学費	小 計	食費、 住居・光熱費	保健衛生費、 娯楽し好費、 その他の 日常費	小 計	
大 学	昼 間 部	国立	522,800	150,900	673,700	542,100	348,100	890,200	1,563,900
		公立	536,200	145,900	682,100	441,900	348,200	790,100	1,472,200
		私立	1,154,400	165,300	1,319,700	313,600	343,900	657,500	1,977,200
		平均	1,013,700	161,800	1,175,500	359,700	344,900	704,600	1,880,100
	夜 間 部	国立	265,200	129,800	395,000	413,600	459,200	872,800	1,267,800
		公立	305,500	174,500	480,000	465,700	515,300	981,000	1,461,000
		私立	600,700	154,200	754,900	295,200	361,700	656,900	1,411,800
		平均	505,400	148,800	654,200	331,300	392,000	723,300	1,377,500
短 期 大 学	昼 間 部	国立	...	...	...	...	...	...	...
		公立	423,100	101,300	524,400	344,500	300,200	644,700	1,169,100
		私立	964,400	158,100	1,122,500	218,600	336,800	555,400	1,677,900
		平均	936,700	155,200	1,091,900	225,100	334,800	559,900	1,651,800
	夜 間 部	国立	...	...	...	...	...	...	...
		公立	185,900	101,700	287,600	240,600	429,900	670,500	958,100
		私立	619,800	93,600	713,400	219,800	307,100	526,900	1,240,300
		平均	493,100	95,900	589,000	225,900	342,900	568,800	1,157,800
大 学 院	修 士 課 程	国立	493,300	130,700	624,000	632,200	381,700	1,013,900	1,637,900
		公立	514,100	162,400	676,500	467,200	420,200	887,400	1,563,900
		私立	898,100	184,100	1,082,200	449,900	396,900	846,800	1,929,000
		平均	636,700	151,400	788,100	558,100	389,500	947,600	1,735,700
	博 士 課 程	国立	424,900	221,500	646,400	791,400	613,100	1,404,500	2,050,900
		公立	476,700	254,800	731,500	671,400	706,300	1,377,700	2,109,200
		私立	640,600	301,200	941,800	715,900	674,900	1,390,800	2,332,600
		平均	478,600	242,000	720,600	767,200	632,500	1,399,700	2,120,300
	学 位 課 程 専 門 職	国立	646,500	186,100	832,600	629,200	442,300	1,071,500	1,904,100
		公立	544,000	203,400	747,400	423,900	517,900	941,800	1,689,200
		私立	1,150,700	216,900	1,367,600	558,000	448,400	1,006,400	2,374,000
		平均	962,400	206,200	1,168,600	576,800	448,900	1,025,700	2,194,300

(4) 居住形態別の学生数の割合 (D表)

居住形態別学生数の割合は、大学昼間部の平均で自宅 56.8%、学寮 5.6%、下宿・アパート・その他（以下、「下宿等」という）37.6%である。なお、自宅通学者は、私立では 63.0%を占めているのに対し、国立、公立ではそれぞれ 33.3%、42.3%と低くなっている。

短期大学昼間部の平均では、自宅 72.6%、学寮 6.5%、下宿等 20.9%と自宅が最も高く、その割合は大学昼間部と比べて高くなっている。

また、大学院については、修士課程の平均で自宅 43.3%、学寮 3.7%、下宿等 53.0%、博士課程の平均で自宅 44.9%、学寮 3.3%、下宿等 51.8%、専門職学位課程の平均で自宅 53.8%、学寮 4.6%、下宿等 41.6%となっている。

大学、短期大学、大学院専門職学位課程では自宅の割合が最も高いが、大学院修士課程、博士課程では下宿等が最も高くなっている。

D表 居住形態別学生数の割合

(単位：%)

区 分		自宅	学寮	下宿等	計	
大 学	昼間部	国立	33.3	5.5	61.2	100.0
		公立	42.3	2.3	55.4	100.0
		私立	63.0	5.8	31.2	100.0
		平均	56.8	5.6	37.6	100.0
	夜間部		57.8	5.1	37.1	100.0
大短 学期	昼間部	72.6	6.5	20.9	100.0	
	夜間部	64.5	1.8	33.7	100.0	
大 学 院	修士課程	国立	32.0	4.6	63.4	100.0
		公立	53.1	2.8	44.1	100.0
		私立	59.3	2.4	38.3	100.0
		平均	43.3	3.7	53.0	100.0
	博士課程	国立	39.8	3.9	56.3	100.0
		公立	58.3	3.4	38.2	100.0
		私立	55.8	1.5	42.8	100.0
		平均	44.9	3.3	51.8	100.0
	学位 専門 課程	国立	43.9	6.8	49.3	100.0
		公立	57.4	17.5	25.0	100.0
		私立	58.9	2.7	38.4	100.0
		平均	53.8	4.6	41.6	100.0

## (5) 居住形態別の学生生活費 (E表, 第2図)

## ① 大学昼間部

居住形態別の学生生活費は、国・公・私立いずれも下宿等通学者が最も高く、自宅通学者の1.4～1.5倍であり、その差額は、国立約63万円、公立約56万円、私立約65万円となっている。学寮通学者の場合は、国・公・私立いずれも自宅通学者と下宿等通学者の中間にあって、自宅通学者の1.1～1.2倍で、その差額は、国立約22万円、公立約24万円、私立約22万円となっている。

自宅通学者と学寮、下宿等通学者の学生生活費の差は、主として食費及び住居・光熱費によるものであり、これを大学昼間部の平均を例にとって月額で示したのが第2図である。

食費及び住居・光熱費について、下宿等通学者と学寮通学者を比較すると、下宿等通学者の方が、食費で月額約4千円、住居・光熱費で月額約1万6千円高くなっている。

修学費（課外活動費、通学費を含む）については、自宅通学者が最も高いが、これは自宅通学者の通学費が最も高いことによるものである。

## ② 大学院

修士課程では、下宿等通学者の学生生活費は、自宅通学者の1.4倍で、その差額は約51万円となっている。

博士課程では、下宿等通学者の学生生活費は、自宅通学者の1.3倍で、そ

の差額は約 53 万円となっている。

専門職学位課程では，下宿等通学者の学生生活費は，自宅通学者の 1.3 倍で，その差額は，約 50 万円となっている。

**E表 居住形態別学生生活費**

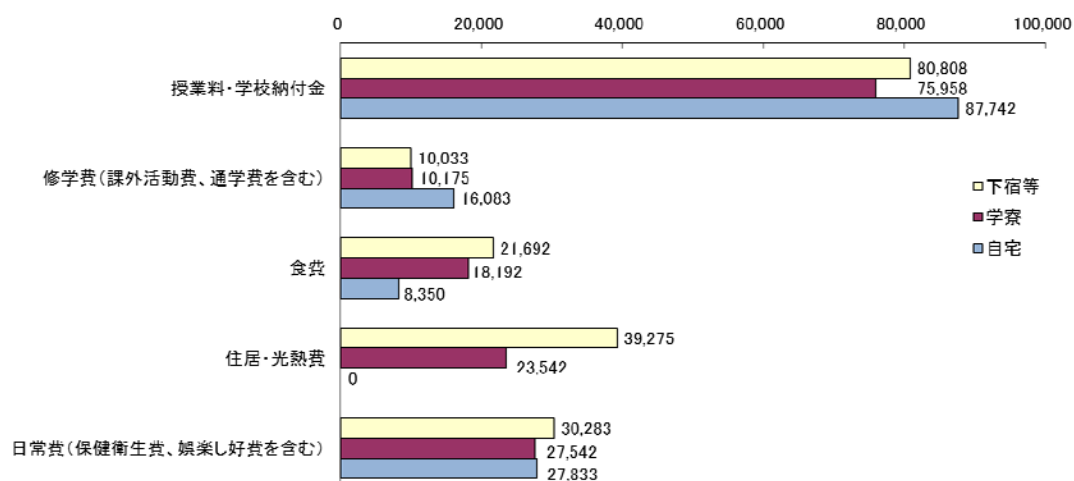
(単位：円)

区 分		自宅	学寮	下宿等	
大 学	昼 間 部	国 立	1,168,000 (100)	1,384,500 (119)	1,795,400 (154)
		公 立	1,155,600 (99)	1,400,100 (120)	1,715,900 (147)
		私 立	1,763,200 (151)	1,978,400 (169)	2,411,000 (206)
		平均	1,680,100	1,864,900	2,185,100
大 学 院	修 士 課 程	国 立	1,228,000 (100)	1,345,100 (110)	1,847,200 (150)
		公 立	1,276,400 (104)	1,314,100 (107)	1,876,000 (153)
		私 立	1,670,300 (136)	1,954,800 (159)	2,293,700 (187)
		平均	1,449,500	1,479,800	1,963,000
	博 士 課 程	国 立	1,710,800 (100)	1,681,100 (98)	2,230,600 (130)
		公 立	1,813,900 (106)	1,354,700 (79)	2,429,600 (142)
		私 立	1,960,000 (115)	1,886,600 (110)	2,676,700 (156)
		平均	1,797,100	1,685,600	2,328,300
	学 位 専 門 課 程	国 立	1,550,800 (100)	1,573,100 (101)	2,152,300 (139)
		公 立	1,784,900 (115)	1,164,900 (75)	1,966,300 (127)
		私 立	2,115,000 (136)	2,264,500 (146)	2,708,000 (175)
		平均	1,965,500	1,784,500	2,465,600

(注) ( )は、国立の自宅を基準(100)とした場合の指数である。

**第2図 居住形態別学生生活費の支出状況(月額) [大学昼間部平均]**

(円)



(注) 自宅生は住居・光熱費のデータなし。



### (6) 地域別・居住形態別学生生活費 (F表, 第3図)

大学昼間部について学生生活費を地域別に比較すると、国・公・私立全体の平均では、東京圏（「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう）が最も高く、以下京阪神（「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう）、その他の地域の順となっている。設置者別・居住形態別にみると、最も高いのは私立の東京圏の下宿等通学者で約 259 万円となっている。

F表 地域別・居住形態別学生生活費(大学昼間部)

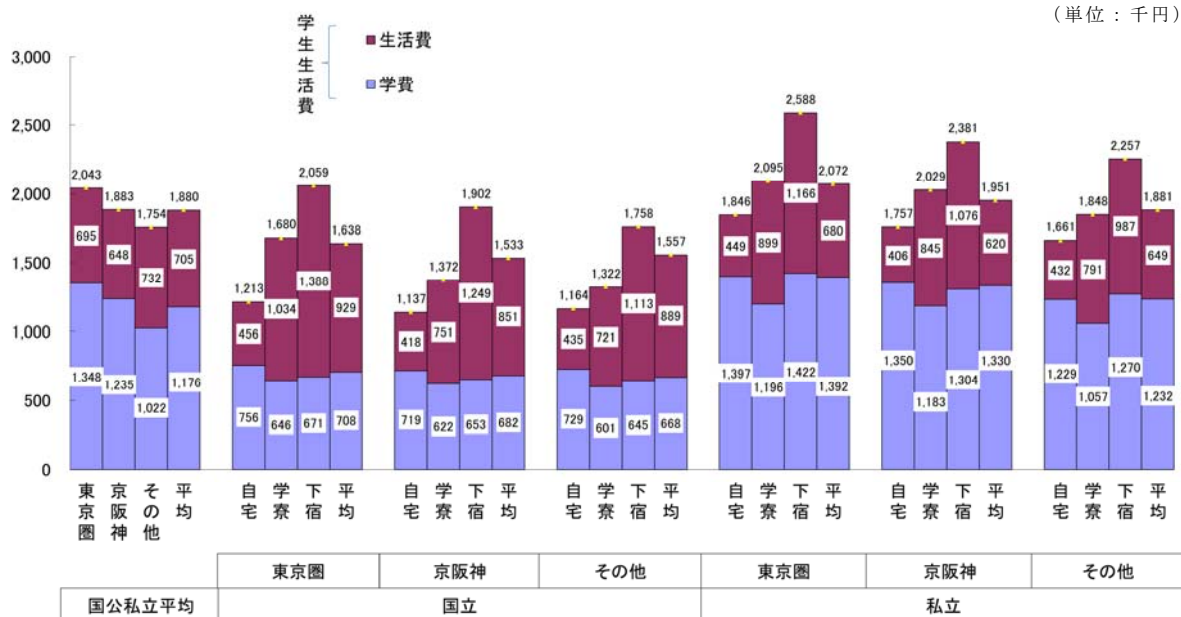
(単位：円)

区分	東京圏			京阪神			その他			全国平均			
	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	学費	生活費	合計	
国公立平均	1,347,800	695,100	2,042,900	1,235,100	647,800	1,882,900	1,022,400	731,700	1,754,100	1,175,500	704,600	1,880,100	
国立	自宅	756,200	456,300	1,212,500	719,100	418,100	1,137,200	729,100	434,500	1,163,600	732,200	435,800	1,168,000
	学寮	646,300	1,033,500	1,679,800	621,600	750,600	1,372,200	600,800	720,800	1,321,600	609,700	774,800	1,384,500
	下宿	670,900	1,388,300	2,059,200	652,900	1,248,900	1,901,800	645,200	1,112,800	1,758,000	648,000	1,147,400	1,795,400
	平均	708,300	929,400	1,637,700	681,900	850,800	1,532,700	667,900	889,100	1,557,000	673,700	890,200	1,563,900
公立	自宅	748,100	423,000	1,171,100	710,800	419,700	1,130,500	739,400	421,400	1,160,800	734,500	421,100	1,155,600
	学寮	656,000	1,214,000	1,870,000	590,500	804,300	1,394,800	652,700	743,200	1,395,900	641,900	758,200	1,400,100
	下宿	663,900	1,252,800	1,916,700	647,800	1,117,100	1,764,900	641,800	1,054,500	1,696,300	643,700	1,072,200	1,715,900
	平均	710,700	790,800	1,501,500	682,700	706,800	1,389,500	679,300	805,600	1,484,900	682,100	790,100	1,472,200
私立	自宅	1,396,800	448,900	1,845,700	1,350,400	406,100	1,756,500	1,229,300	431,900	1,661,200	1,328,600	434,600	1,763,200
	学寮	1,196,000	898,800	2,094,800	1,183,400	845,400	2,028,800	1,056,600	791,100	1,847,700	1,133,300	845,100	1,978,400
	下宿	1,421,600	1,166,100	2,587,700	1,304,200	1,076,400	2,380,600	1,269,500	987,400	2,256,900	1,336,600	1,074,400	2,411,000
	平均	1,392,100	680,300	2,072,400	1,330,300	620,300	1,950,600	1,231,700	649,000	1,880,700	1,319,700	657,500	1,977,200

(注)「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。  
「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

第3図 地域別・居住形態別学生生活費（大学昼間部）

（単位：千円）



(7) 男女別・居住形態別学生生活費（G表）

大学昼間部について居住形態別の学生生活費を男女別にみると、国立では、女子が男子を自宅通学者で約3万5千円（男子約115万3千円，女子約118万7千円），下宿等通学者で約3万2千円（男子約178万4千円，女子約181万6千円）上回っている。

また、私立では、女子が男子を自宅通学者で約1万4千円（男子約175万6千円，女子約177万円），下宿等通学者で約6万4千円（男子約238万4千円，女子約244万7千円）上回っている。

G表 男女別・居住形態別学生生活費（大学昼間部）

（単位：円）

区分	学 費			生 活 費			合 計		
	授業料 学校納付金	修学費 課外活動費 通学費	小 計	食住居・光熱費	保健衛生費 娯楽嗜好費 その他の日常費	小 計			
国立	男	自宅	528,100	196,600	724,700	115,700	312,500	428,200	1,152,900
		学寮	481,800	145,300	627,100	464,400	313,400	777,800	1,404,900
		下宿等	530,600	120,500	651,100	793,600	339,400	1,133,000	1,784,100
国立	女	自宅	527,700	214,200	741,900	93,000	352,500	445,500	1,187,400
		学寮	451,300	132,300	583,600	411,300	359,000	770,300	1,353,900
		下宿等	514,400	127,400	641,800	778,000	396,600	1,174,600	1,816,400
私立	男	自宅	1,145,000	185,300	1,330,300	107,600	318,500	426,100	1,756,400
		学寮	942,600	126,600	1,069,200	470,600	304,100	774,700	1,843,900
		下宿等	1,242,800	115,600	1,358,400	684,700	340,600	1,025,300	2,383,700
私立	女	自宅	1,129,300	197,500	1,326,800	92,300	350,800	443,100	1,769,900
		学寮	1,092,500	110,600	1,203,100	563,100	358,600	921,700	2,124,800
		下宿等	1,179,600	128,000	1,307,600	741,600	398,200	1,139,800	2,447,400

## (8) 学年別の学生生活費 (H表)

学費は学年間で大きな差は見られないが、生活費は高学年になるにつれて高くなる傾向にある。なお、大学昼間部の第5, 6学年については医・歯学部, 獣医学部, 薬学部の学生であり, 第4学年に比較して学費, 生活費とも高くなっている。

H表 学年別の学生生活費

(単位: 円)

区 分		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
大 学	昼 間 部	学 費	1,168,400	1,164,700	1,129,000	1,154,900	2,285,000	2,145,100
		生活費	599,500	690,400	725,000	786,400	936,900	993,400
		計	1,767,900	1,855,100	1,854,000	1,941,300	3,221,900	3,138,500
短 期 大 学	昼 間 部	学 費	1,101,500	1,078,900	1,130,900	...	...	...
		生活費	516,600	597,300	635,700	...	...	...
		計	1,618,100	1,676,200	1,766,600	...	...	...
大 学 院	修 士 課 程	学 費	794,600	782,400	...	...	...	...
		生活費	932,500	963,000	...	...	...	...
		計	1,727,100	1,745,400	...	...	...	...
	博 士 課 程	学 費	722,300	710,900	719,200	800,300	...	...
		生活費	1,361,100	1,423,900	1,352,800	1,909,400	...	...
		計	2,083,400	2,134,800	2,072,000	2,709,700	...	...
学 位 専 門 職 課程	学 費	1,140,200	1,167,100	1,214,900	...	...	...	
	生活費	1,037,200	1,028,900	1,012,400	...	...	...	
	計	2,177,400	2,196,000	2,227,300	...	...	...	

## 2. 学生の収入の状況 (I表, 第4図)

学生生活費は、家庭からの給付, 奨学金及びアルバイト収入等で賄われているが, 上級課程へ進むほど, 家庭からの給付額が少なくなるなど収入構成に差異がある。その状況はI表, 第4図のとおりである。

### ① 大学昼間部等

大学昼間部の家庭からの給付額は, 国・公・私立の平均で約122万円(月額約10万1千円)であり, 収入総額(約200万円)に占める家庭からの給付額の割合は60.8%となり, 前回調査(61.7%)に比べ0.9ポイント下回っている。家庭からの給付額を設置者別にみると, 私立が国立に比べ約29万円上回っている。男女別にみると, 女子が男子を約3万円上回っている。

なお, アルバイトによる収入は平均約32万円で, 収入総額に占める割合は16.2%と, 前回調査(15.4%)に比べ0.8ポイント上回っている。

短期大学昼間部については, 家庭からの給付額は約99万円(月額約8万2千円)で, 収入総額(約176万円)に占める割合は56.2%となっている。

### ② 大学院

修士課程の家庭からの給付額は, 国・公・私立の平均で約87万円(月額約

7万3千円)であり、収入総額(約191万円)に占める家庭からの給付額の割合は45.8%となっている。

博士課程の家庭からの給付額は、国・公・私立の平均で約38万円(月額約3万2千円)であり、収入総額(約272万円)に占める割合は14.1%と低い。なお、奨学金及び定職・その他の占める割合は、家庭からの給付額が低いこともあって、64.3%と高くなっている。

専門職学位課程の家庭からの給付額は、国・公・私立の平均で約99万円(月額約8万3千円)であり、収入総額(約244万円)に占める家庭からの給付額の割合は40.7%となっている。

**I表 収入及びその構成割合**

(単位：円)

区 分		家庭からの給付	奨 学 金	アルバイト	定職・その他	収入総額
大 学 昼 間 部	国 立	(59.5) 996,200	(20.9) 350,200	(16.8) 280,800	(2.8) 46,300	(100.0) 1,673,500
	公 立	(52.4) 838,000	(24.6) 394,200	(20.1) 321,800	(2.9) 45,600	(100.0) 1,599,600
	私 立	(61.5) 1,288,400	(20.2) 422,600	(15.8) 332,000	(2.5) 52,400	(100.0) 2,095,400
	男	(60.4) 1,202,700	(20.9) 416,400	(16.2) 321,500	(2.5) 49,100	(100.0) 1,989,700
	女	(61.3) 1,229,500	(19.9) 399,600	(16.1) 323,900	(2.7) 53,200	(100.0) 2,006,200
	平 均	(60.8) 1,215,200	(20.5) 408,500	(16.2) 322,600	(2.6) 51,000	(100.0) 1,997,300
	短期大学昼間部	(56.2) 989,900	(24.6) 433,000	(14.3) 251,200	(5.0) 87,900	(100.0) 1,762,000
	大学院 修士課程	(45.8) 873,500	(29.0) 551,800	(14.4) 275,200	(10.8) 205,400	(100.0) 1,905,900
	博士課程	(14.1) 383,300	(38.3) 1,040,900	(21.6) 587,400	(26.0) 705,700	(100.0) 2,717,300
	専門職学位課程	(40.7) 993,700	(31.6) 771,300	(4.7) 114,100	(23.0) 561,500	(100.0) 2,440,600

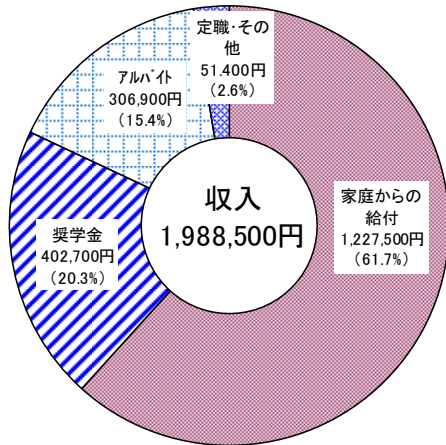
(注)1. ( )は、収入総額に占める割合である。

2. 大学院のアルバイトには、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)を含む。

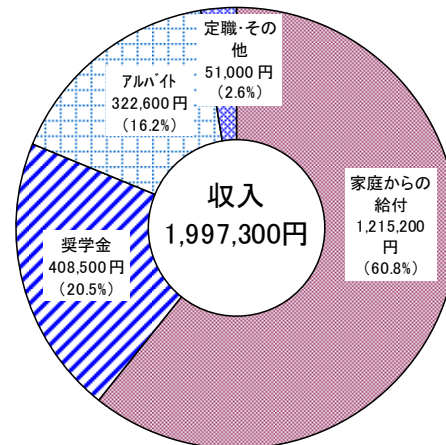
## 第4図 収入額内訳

平成22年度

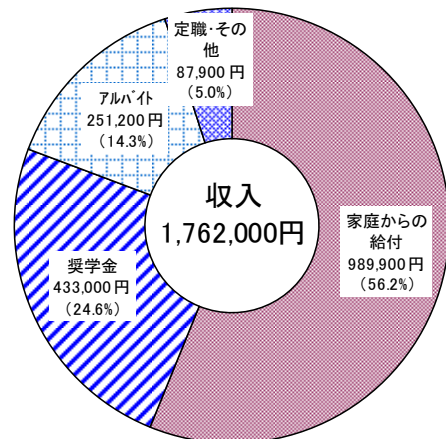
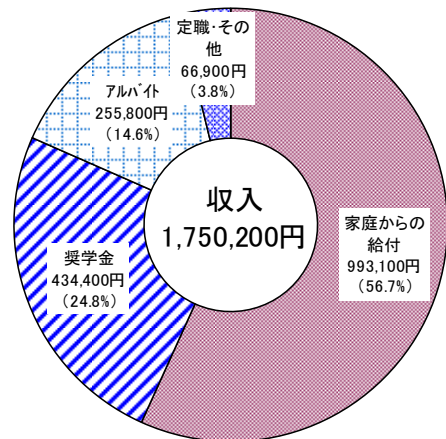
【大学屋間部】



平成24年度

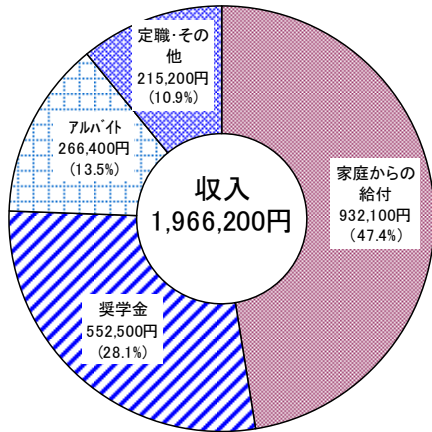


【短期大学屋間部】



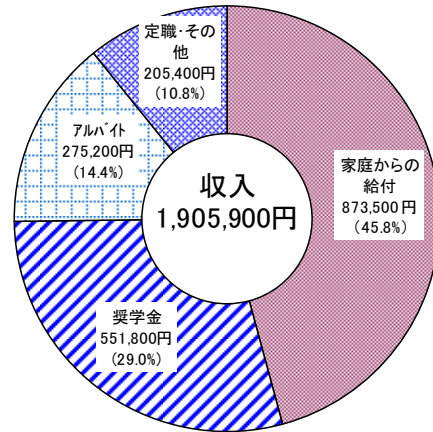
平成22年度

【大学院修士課程】

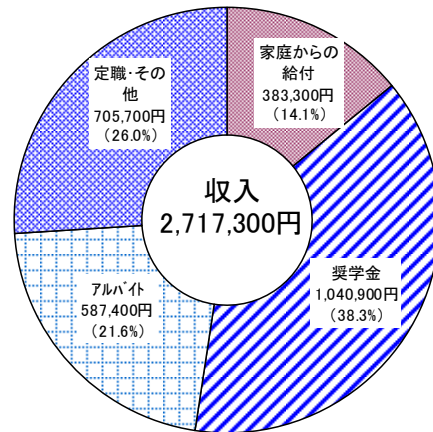
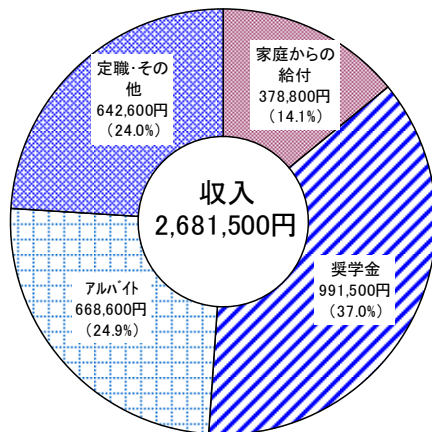


平成24年度

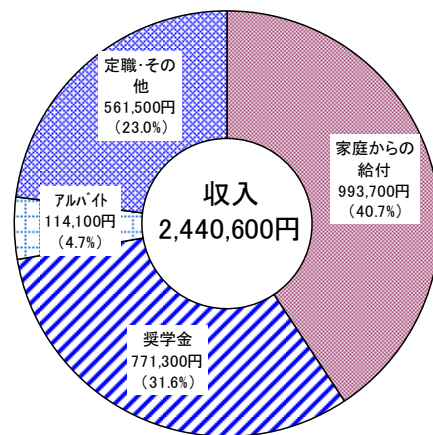
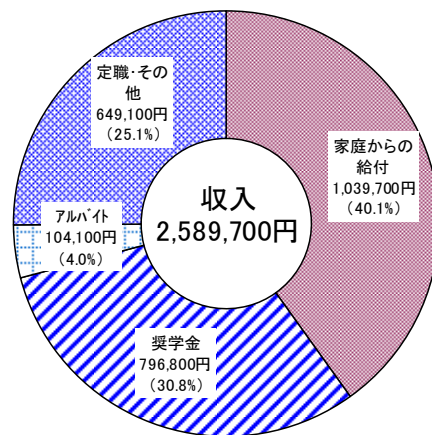
【大学院修士課程】



【大学院博士課程】



【大学院専門職学位課程】



### 3. 家庭からの給付額等

#### (1) 家庭からの給付 (J表, K表)

大学・短期大学の昼間部における家庭からの給付は、その額では大学（約 121 万 5 千円）が短期大学（約 99 万円）に比べ約 23 万円多く、学生生活費に占める割合も大学が 64.6%，短期大学が 59.9%で、大学が短期大学を 4.7 ポイント上回っている。

一方、大学院の学生生活費に占める家庭からの給付割合は、修士課程が 50.3%，博士課程が 18.1%，専門職学位課程が 45.3%と大学・短期大学の昼間部に比べ低くなっている。

また、家庭の年間収入に占める家庭からの給付額の割合は、大学昼間部が 15.0%，大学院修士課程が 11.2%，博士課程が 5.6%，専門職学位課程が 9.7%で、博士課程以外は、前回調査よりも減少している。

#### (2) 家庭の年間平均収入 (K表)

学生の家庭の年間平均収入を設置者別にみると、大学と短期大学では私立が高い傾向にある。大学昼間部では私立が国立に比べ約 43 万円高くなっている。

大学院では、私立が国立に比べ修士課程で約 20 万円、博士課程で約 194 万円、専門職学位課程で約 383 万円高くなっている。

#### J表 家庭からの給付額の推移

(単位：円)

区分		年度	平成16年度	平成18年度	平成20年度	平成22年度	平成24年度
大学昼間部	家庭からの給付額		1,449,200	1,496,300	1,449,400	1,227,500	1,215,200
	$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$		74.7 %	79.0 %	78.0 %	67.1 %	64.6 %
短期大学昼間部	家庭からの給付額		1,253,600	1,269,000	1,211,800	993,100	989,900
	$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$		75.3 %	77.4 %	76.7 %	62.4 %	59.9 %
大学院	修士課程	家庭からの給付額	1,046,300	1,060,900	1,031,700	932,100	873,500
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	59.0 %	60.6 %	59.2 %	53.8 %	50.3 %
	博士課程	家庭からの給付額	526,800	521,200	459,000	378,800	383,300
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	25.0 %	25.0 %	22.4 %	17.9 %	18.1 %
	専門職学位課程	家庭からの給付額	…	1,139,500	1,149,200	1,039,700	993,700
		$\frac{\text{給付額}}{\text{学生生活費}} \times 100$	…	49.4 %	51.7 %	46.3 %	45.3 %

### K表 家庭の年間平均収入

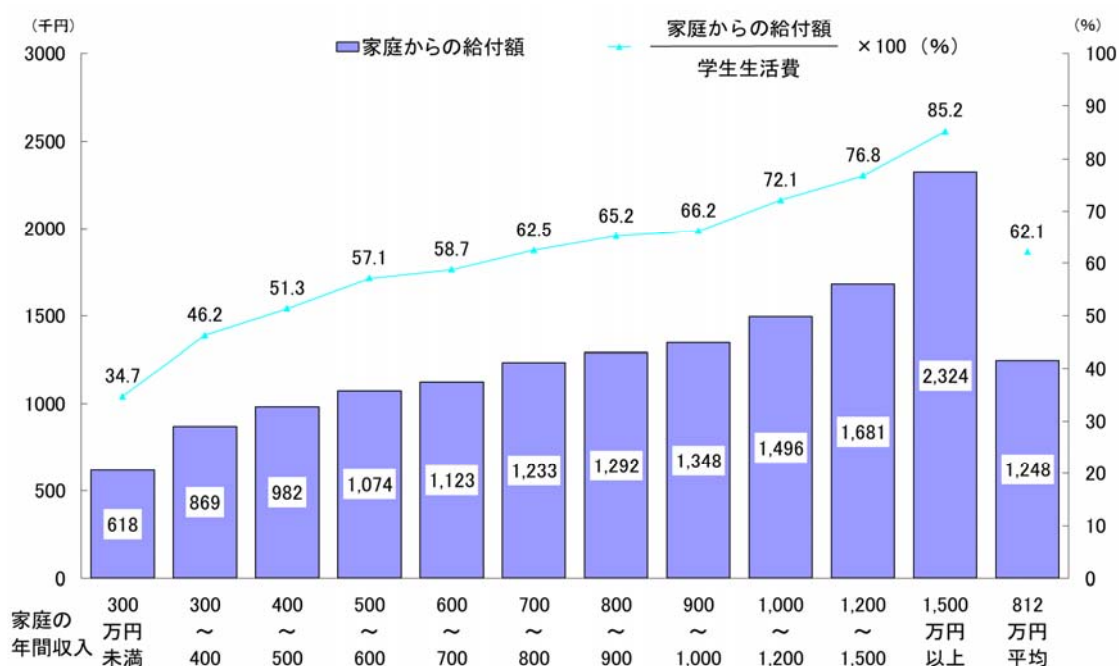
(単位：千円)

区分	大 学		短期大学		大 学 院			
	昼間部	夜間部	昼間部	夜間部	修士課程	博士課程	専門職 学位課程	
平成 24 年 度	国 立	7,800	5,560	...	...	7,770	6,450	7,860
	公 立	7,360	5,120	5,610	4,740	7,010	6,360	7,340
	私 立	8,230	6,910	6,370	4,910	7,970	8,390	11,690
	平 均	(1.9)	(5.7)	(0.0)	(△7.4)	(△2.0)	(△7.4)	(17.5)
参 考	平成22年	(△3.0)	(△10.9)	(△4.4)	(△8.5)	(△1.9)	(△0.1)	(△0.5)
		7,970	6,160	6,330	5,250	7,950	7,450	8,730
	平成20年	(△2.8)	(0.0)	(△6.5)	(6.5)	(1.5)	(△4.1)	(2.8)
		8,220	6,910	6,620	5,740	8,100	7,460	8,770
	平成18年	(0.5)	(1.3)	(△7.1)	(△13.2)	(△4.0)	(△3.2)	
		8,460	6,910	7,080	5,390	7,980	7,780	8,530
	平成16年	(△6.1)	(△3.1)	(0.8)	(△16.1)	(△6.9)	(△0.9)	
		8,420	6,820	7,620	6,210	8,310	8,040	...

### (3) 家庭の年間収入別学生生活費に占める家庭からの給付の割合 (第5図)

大学昼間部について家庭の収入額と家庭からの給付額の関係を見ると、おおむね家庭の収入が高くなるにつれて家庭からの給付額も高く、また、学生生活費に占める家庭からの給付額の割合も高くなっている。

第5図 家庭の年間収入別学生生活費に占める家庭からの給付の割合(大学昼間部)





#### (4) 家庭の収入階層区別学生数の割合 (L表)

大学昼間部の家庭の年間収入額別学生数の割合を、総務省の家計調査（平成24年）から全国全世帯の45～54歳の世帯主（学生の家庭の世帯主年齢と想定）を抜き出し、五分位階層区分（集計世帯を収入額の低いものから高いものへ順に並べ、その世帯数を5等分したもので、収入額の低いグループから高い方へ順に第Ⅰ～第Ⅴと区分したもの）を推計し、これに今回調査を当てはめて各区分別学生数をみると、国立と私立は第Ⅳ五分位、公立は第Ⅰ五分位に最も高い分布を示している。また、国立は第Ⅱ五分位、公立と私立は第Ⅴ五分位に最も低い分布を示している。

L表 家庭の収入階層区別学生数の割合【45～54歳の世帯主】（大学昼間部）

（単位：％）

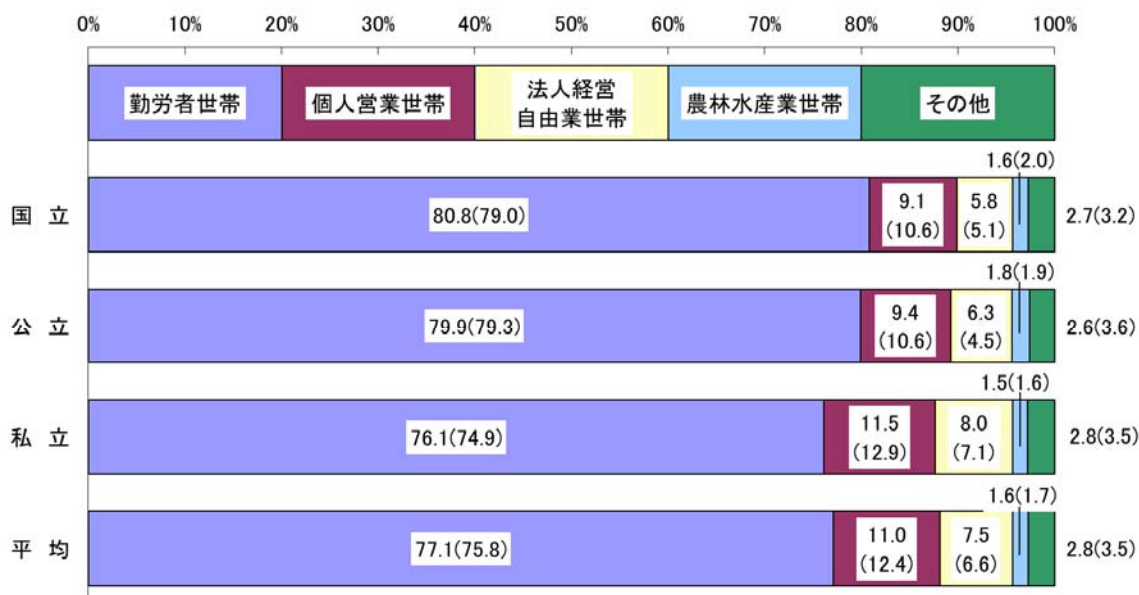
区 分	第Ⅰ五分位	第Ⅱ五分位	第Ⅲ五分位	第Ⅳ五分位	第Ⅴ五分位
	千円 (～4,948) 4,910千円未満	千円 (4,948～6,567) 4,910千円以上 6,544千円未満	千円 (6,567～8,250) 6,544千円以上 8,101千円未満	千円 (8,250～1,0571) 8,101千円以上 10,210千円未満	千円 (10,571～) 10210千円以上
国 立	(21.4) 21.1	(17.7) 18.6	(24.9) 20.1	(18.7) 21.4	(17.3) 18.8
公 立	(24.2) 23.8	(21.0) 22.4	(25.7) 21.0	(17.6) 18.5	(11.5) 14.3
私 立	(21.1) 20.9	(17.8) 19.4	(23.3) 19.9	(21.7) 21.4	(16.2) 18.4
平 均	(21.3) 21.1	(17.9) 19.4	(23.7) 20.0	(21.0) 21.3	(16.2) 18.3

(注) ( )は、平成22年度調査の額及び割合である。

#### (5) 主たる家計支持者の世帯区別学生数の割合（第6図）

大学昼間部の場合，国・公・私立いずれも勤労者世帯の学生数が多く，76.1～80.8%を占めている。

第6図 主たる家計支持者の世帯区別学生数の割合(大学昼間部)



(注) ( )は、平成22年度調査の割合である。

### 4. アルバイトの従事状況

#### (1) アルバイトの従事状況（M表，N表，第7図）

調査時前の1年間に，アルバイトに従事した経験を有する者の全学生に対する割合等の状況は，次のとおりである。

##### ①大学昼間部

アルバイト従事者は，全学生の74.0%となっており，平成22年度調査と比較して0.9ポイント減となっている。これらの者の経済状況を示したのが第7図である。「家庭からの給付なし」の者が8.5%，「家庭からの給付のみでは修学に不自由，修学継続困難」な者が45.9%，「家庭からの給付のみで修学可能」であるがアルバイトに従事したとする者が45.6%となっている。

##### ②大学院

アルバイト従事者は，全学生のうち，修士課程が78.3%，博士課程が70.0%，専門職学位課程が32.8%で，これらのうち，「家庭からの給付なし」の者がそれぞれ14.0%，47.1%，21.8%，「家庭からの給付のみでは修学に不自由・修学継続困難」な者がそれぞれ50.0%，37.4%，45.4%となっている。

修士課程で63.9%，博士課程で84.5%，専門職学位課程で67.2%の者が，修学上やむを得ずアルバイトに従事していることが伺える。

M表 アルバイトの従事状況

(単位：%)

区 分			20年度	22年度	24年度		
大学 昼間部	従事者	アルバイト	家庭からの給付のみで修学可能	39.9	32.8	33.7	
		アルバイト	家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	37.6	40.3	40.3	
		計		77.6	73.1	74.0	
		アルバイト非従事者	22.4	26.9	26.0		
大 学 院	修士課程	従事者	アルバイト	家庭からの給付のみで修学可能	31.0	27.5	28.2
			アルバイト	家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	49.6	50.6	50.1
			計		80.5	78.1	78.3
			アルバイト非従事者	19.5	21.9	21.7	
	博士課程	従事者	アルバイト	家庭からの給付のみで修学可能	11.2	9.3	10.8
			アルバイト	家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	64.8	65.2	59.1
			計		75.9	74.5	70.0
			アルバイト非従事者	24.1	25.5	30.0	
	学位 専門 課程	従事者	アルバイト	家庭からの給付のみで修学可能	8.8	7.0	10.8
			アルバイト	家庭からの給付のみでは修学不自由・困難	19.1	21.5	22.1
			計		27.9	28.4	32.8
			アルバイト非従事者	72.1	71.6	67.2	

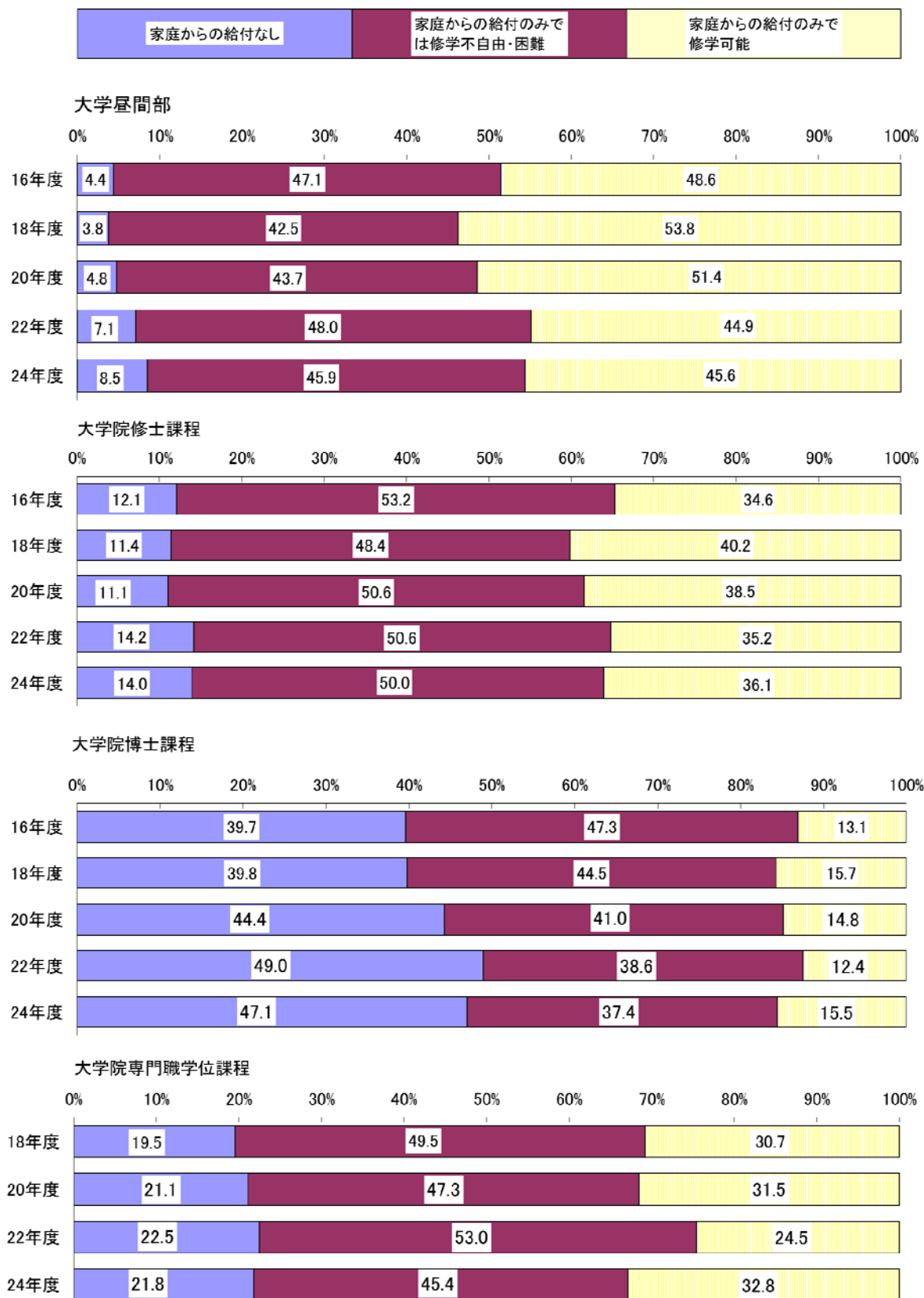
- (注) 1. 「家庭からの給付のみでは修学不自由・困難」とは、家庭からの給付がない者を含む。  
 2. 大学院は、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)従事者を含む。

N表 アルバイト従事者の経済状況

区分		全学生のうち アルバイト従事者	家庭からの給付なし、 給付のみでは修学に不自由・困難	家庭からの給付のみで 修学可能	
大学 昼間部	国立	73.7 (72.4) %	50.0 (53.0) %	50.0 (47.0) %	
	公立	78.3 (73.1)	58.1 (57.7)	41.9 (42.3)	
	私立	73.8 (73.2)	55.2 (55.4)	44.8 (44.6)	
	平均	74.0 (73.1)	54.4 (55.1)	45.6 (44.9)	
大 学 院	修士課程	国立	77.8 (77.0)	63.1 (64.0)	36.9 (36.0)
		公立	77.0 (72.9)	66.0 (67.6)	34.0 (32.4)
		私立	79.4 (80.8)	65.0 (65.6)	35.0 (34.4)
		平均	78.3 (78.1)	63.9 (64.8)	36.1 (35.2)
	博士課程	国立	69.1 (74.5)	85.0 (88.3)	15.0 (11.7)
		公立	63.0 (69.1)	88.6 (90.9)	11.4 (9.1)
		私立	74.1 (75.5)	82.2 (84.8)	17.8 (15.2)
		平均	70.0 (74.5)	84.5 (87.6)	15.5 (12.4)
学位 専門 課程	国立	34.8 (27.7)	64.2 (73.3)	35.8 (26.7)	
	公立	41.5 (36.5)	71.8 (76.6)	28.2 (23.4)	
	私立	31.3 (28.3)	68.6 (76.4)	31.4 (23.6)	
	平均	32.8 (28.4)	67.2 (75.5)	32.8 (24.5)	

- (注) 1. 「家庭からの給付なし、給付のみでは修学に不自由・困難」、「家庭からの給付のみで修学可能」欄の数字は、57頁(H-1表)、88頁(H-1表、H-2表)、89頁(H-3表)を基に全学生のうちアルバイト従事者を、100とした割合である。  
 2. ( )は、平成22年度調査における割合である。  
 3. 大学院は、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)従事者を含む。

第7図 家庭からの給付程度別アルバイトの従事学生の割合の推移



(注) 大学院は、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)従事者を含む。

## (2) アルバイト従事時期別学生数の割合 (〇表, 第8図)

### ① 大学昼間部

「長期休暇中も授業期間中も従事する者」及び「授業期間中に経常的に従事する者」の合計は 95.1% となっている。

### ② 大学院

「長期休暇中も授業期間中も従事する者」及び「授業期間中に経常的に従事する者」の合計は、修士課程が 93.3%、博士課程は 92.7%、専門職学位課程は 88.1% となっている。

〇表 アルバイト従事時期別学生数の割合

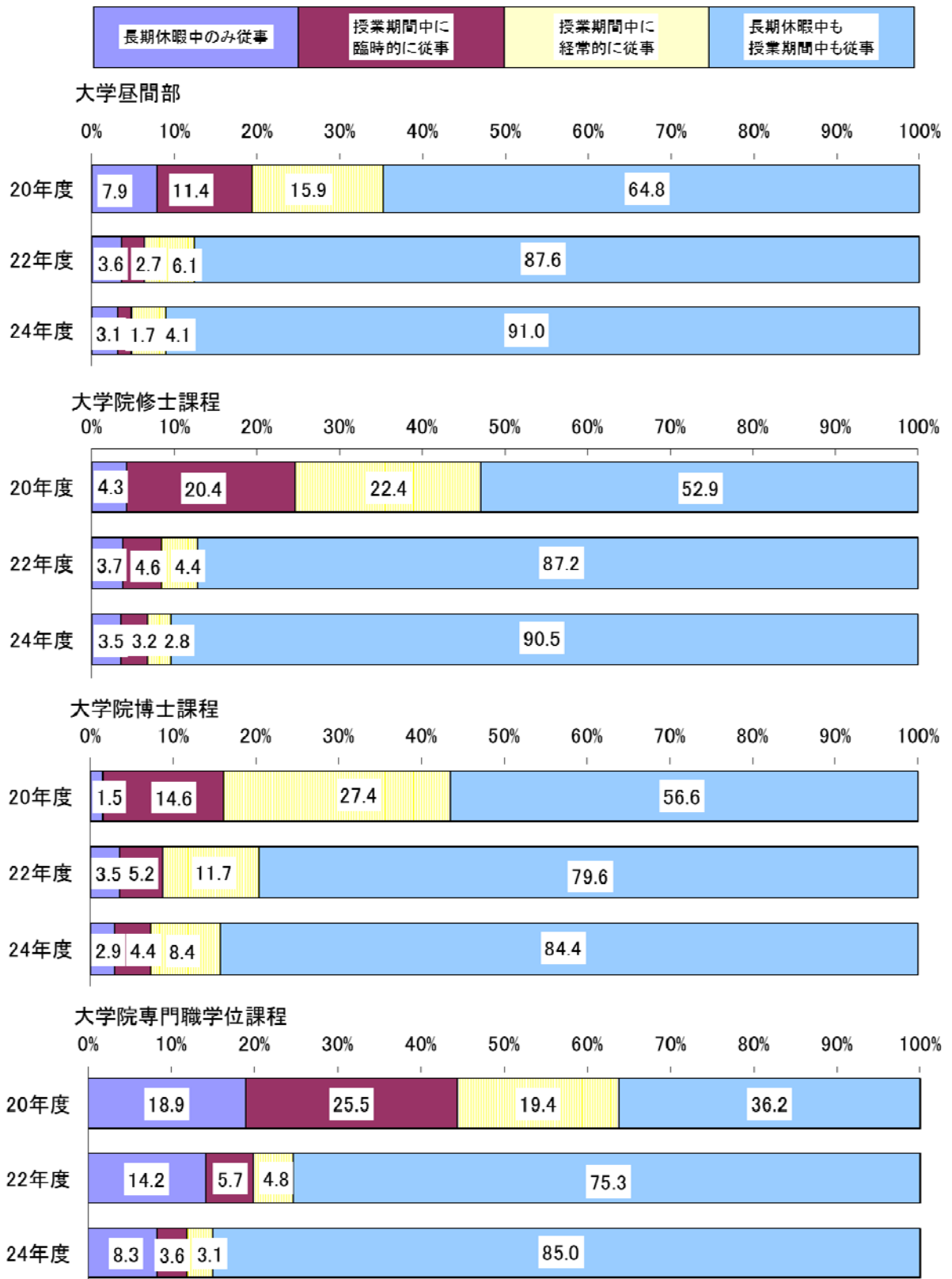
(単位: %)

区分		長期休暇中のみ 従事	授業期間中に 臨時的に従事	授業期間中に 経常的に従事	長期休暇中も 授業期間中も従事		
大学 昼間部	国立	2.8 (3.6)	2.7 (3.3)	4.5 (5.8)	90.0 (87.3)	94.5 (93.1)	
	公立	2.6 (3.3)	1.7 (3.4)	4.5 (5.5)	91.2 (87.8)	95.7 (93.3)	
	私立	3.2 (3.6)	1.5 (2.6)	4.0 (6.2)	91.3 (87.6)	95.2 (93.8)	
	平均	3.1 (3.6)	1.7 (2.7)	4.1 (6.1)	91.0 (87.6)	95.1 (93.7)	
大学院	修士課程	国立	3.0 (3.3)	3.6 (5.3)	2.3 (4.1)	91.1 (87.4)	93.4 (91.5)
		公立	2.7 (4.1)	2.6 (4.7)	1.9 (4.6)	92.8 (86.6)	94.7 (91.2)
		私立	4.5 (4.4)	2.6 (3.7)	3.8 (5.0)	89.0 (87.0)	92.8 (92.0)
		平均	3.5 (3.7)	3.2 (4.6)	2.8 (4.4)	90.5 (87.2)	93.3 (91.6)
	博士課程	国立	3.1 (3.6)	4.7 (6.1)	8.1 (12.0)	84.1 (78.3)	92.1 (90.3)
		公立	1.3 (3.7)	2.6 (3.7)	9.1 (7.3)	87.0 (85.3)	96.1 (92.6)
		私立	2.6 (3.5)	4.1 (3.5)	8.8 (11.8)	84.4 (81.3)	93.3 (93.1)
		平均	2.9 (3.5)	4.4 (5.2)	8.4 (11.7)	84.4 (79.6)	92.7 (91.3)
	専門職 学位課程	国立	7.5 (18.6)	4.6 (8.3)	3.3 (5.7)	84.5 (67.4)	87.9 (73.1)
		公立	9.4 (18.5)	9.9 (12.1)	4.7 (2.2)	76.1 (67.2)	80.8 (69.4)
		私立	8.7 (11.9)	2.6 (4.1)	2.9 (4.6)	85.8 (79.4)	88.7 (84.0)
		平均	8.3 (14.2)	3.6 (5.7)	3.1 (4.8)	85.0 (75.3)	88.1 (80.1)

(注) 1. ( )は、平成22年度調査における割合である。

2. 大学院は、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)従事者を含まない。

第8図 アルバイト従事時期別学生数の割合の推移



(注) 大学院は、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)従事者を含まない。

### (3) アルバイト従事職種別学生数の割合 (P表)

アルバイトに従事した職種別の学生数の割合は、P表にみられるように、学校種別によって大きく異なっている。

#### ①大学昼間部等

大学昼間部では、軽労働に従事した者の割合が77.7%を占め、次いで家庭教師に従事した者が12.2%となっている。

なお、短期大学昼間部では、軽労働に従事した者の割合が91.4%を占めているのに対し、家庭教師に従事した者は2.1%と、大学昼間部に比べ相当低くなっている。

#### ②大学院

修士課程では、軽労働に従事した者の割合が52.7%、次いで家庭教師に従事した者が25.3%、博士課程では、特殊技能・その他に従事した者の割合が51.0%、次いで家庭教師に従事した者が23.1%、専門職学位課程では、軽労働に従事した者の割合が41.8%、次いで家庭教師に従事した者が27.0%となっている。

修士課程、専門職学位課程では、軽労働に従事する者の割合が高く、博士課程では特殊技能・その他に従事する者の割合が高くなっている。

**P表 アルバイト従事職種別学生数の割合**

(単位：%)

区 分		家庭教師	事 務	軽労働	重労働 危険作業	特殊技能 その他	計
大学昼間部		(13.1) 12.2	(5.6) 3.7	(72.1) 77.7	(2.3) 1.2	(6.9) 5.1	100.0
男		(13.7) 12.8	(5.0) 3.5	(70.1) 75.8	(3.7) 2.3	(7.5) 5.7	100.0
女		(12.6) 11.6	(6.2) 3.9	(74.2) 79.8	(0.8) 0.1	(6.3) 4.5	100.0
短期大学昼間部		(1.3) 2.1	(1.6) 1.4	(86.5) 91.4	(1.5) 0.6	(9.2) 4.5	100.0
大 学 院	修士課程	(22.8) 25.3	(12.4) 8.1	(46.5) 52.7	(1.6) 1.1	(16.7) 12.8	100.0
	博士課程	(20.2) 23.1	(13.7) 10.2	(12.9) 14.6	(1.2) 1.1	(52.0) 51.0	100.0
	専門職学位課程	(23.0) 27.0	(23.0) 16.4	(34.2) 41.8	(2.7) 0.9	(17.1) 14.0	100.0

- (注) 1. 軽労働とは、販売、接客、調理、清掃、警備、包装、配布などである。  
 2. ( )は、平成22年度調査の割合である。  
 3. 大学院は、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)従事者を含まない。

## 5. 奨学金の受給希望及び受給状況

### (1) 学校種別の奨学金受給希望・受給状況（第9図）

奨学金の受給希望の状況及び受給者（日本学生支援機構，地方公共団体，民間団体，学校からの奨学金受給者をいう）の割合をみると，第9図のとおりとなっている。

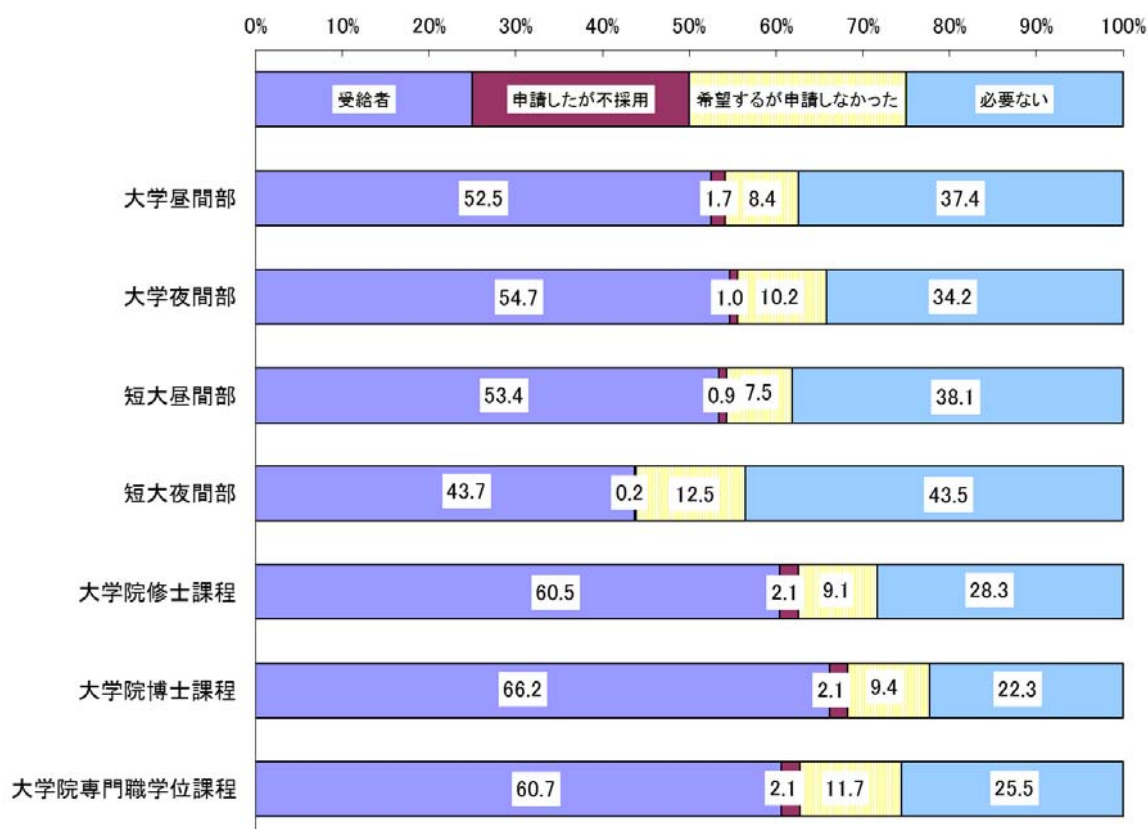
#### ①大学昼間部

奨学金受給者は52.5%，申請したが不採用となった者は1.7%であり，両者を合わせた54.2%の者が奨学金受給希望者といえる。さらに，「奨学金の受給を希望するが申請しなかった」いわゆる潜在的な奨学金受給希望者が8.4%となっている。これらを含めると，全学生数の約6割以上の者が奨学金の受給を希望していることとなる。

#### ②大学院

奨学金受給者は，修士課程が60.5%，博士課程が66.2%，専門職学位課程が60.7%となっており，大学昼間部の52.5%に比べ高くなっている。

第9図 学校種別の奨学金受給希望・受給状況





## (2) 設置者別の奨学金受給希望・受給状況 (第10図)

全学生に対する奨学金受給者の割合を設置者別にみると、第10図のとおりである。

### ① 大学昼間部

奨学金受給者の割合は、公立が最も高く59.0%で、以下私立52.7%、国立49.8%の順となっている。また、奨学金の申請者に対する受給者の割合は、国立96.7%、公立97.6%、私立96.9%となっている。

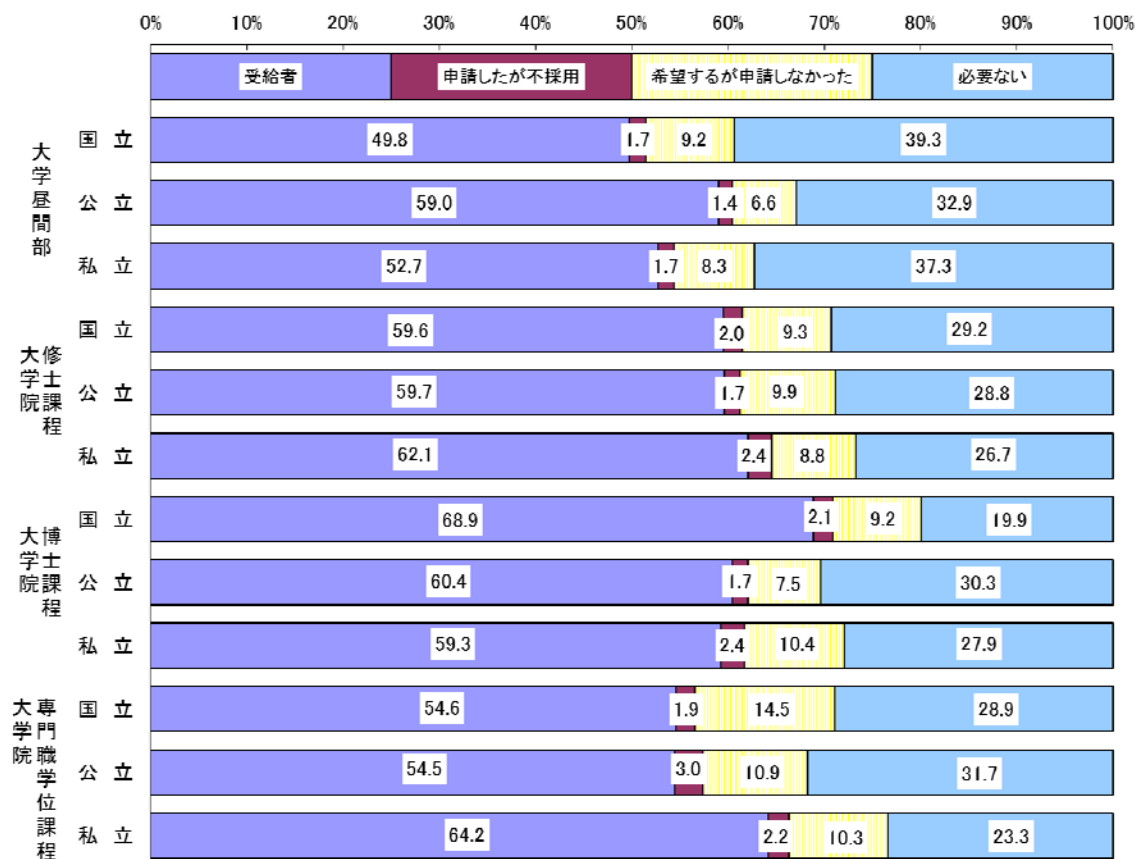
### ② 大学院

修士課程の奨学金受給者の割合は、私立が最も高く62.1%で、以下公立59.7%、国立59.6%の順となっている。なお、奨学金の申請者に対する受給者の割合は、国立96.8%、公立97.3%、私立96.3%となっている。

博士課程の奨学金受給者の割合は、国立が最も高く68.9%で、以下公立60.4%、私立59.3%の順となっている。なお、奨学金の申請者に対する受給者の割合は、国立97.1%、公立97.3%、私立96.1%となっている。

専門職学位課程の奨学金受給者の割合は、私立が最も高く64.2%で、以下国立54.6%、公立54.5%の順となっている。なお、奨学金の申請者に対する受給者の割合は、国立96.6%、公立94.8%、私立96.7%となっている。

第10図 設置者別の奨学金受給希望・受給状況

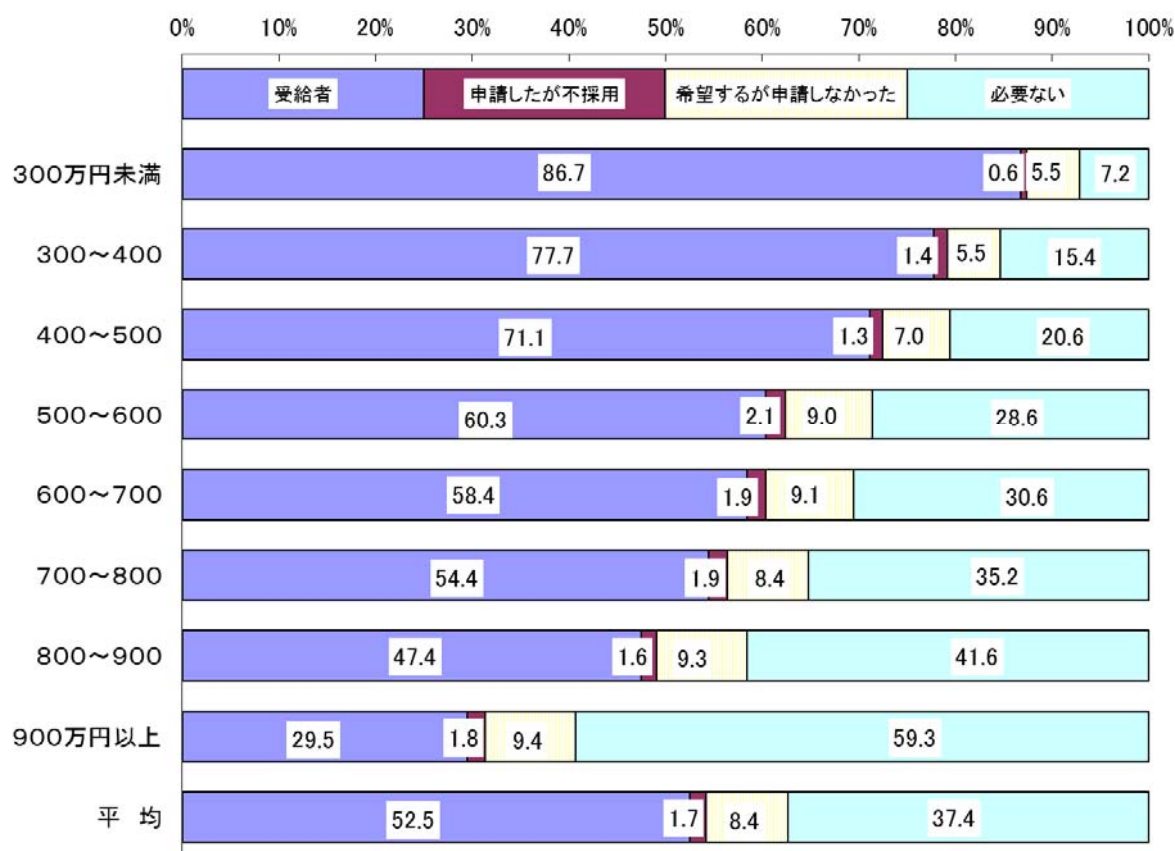


### (3) 家庭の所得階層別の奨学金受給希望・受給状況（第11図）

大学昼間部の家庭の所得階層別の奨学金受給希望及び受給状況をみると、第11図のとおり、学生の家庭の所得が高くなるにつれて奨学金受給者の割合は小さくなる傾向を示している。

なお、「奨学金の受給を希望するが申請をしなかった」いわゆる潜在的な奨学金希望者は、家庭の所得の高低にかかわらず、全所得階層にわたりほぼ一定の割合を占めている。

第11図 家庭の所得階層別の奨学金受給希望・受給状況(大学昼間部)



### (4) 奨学金の種類別・設置者別受給状況（第12図）

奨学金の種類別受給状況を設置者別にみると第12図のとおりである。

#### ①大学昼間部

日本学生支援機構の奨学金受給者（日本学生支援機構以外の奨学金と両方を受給している者を含む）の割合は、公立が93.9%と最も高く、以下国立91.6%、私立90.0%の順となっている。

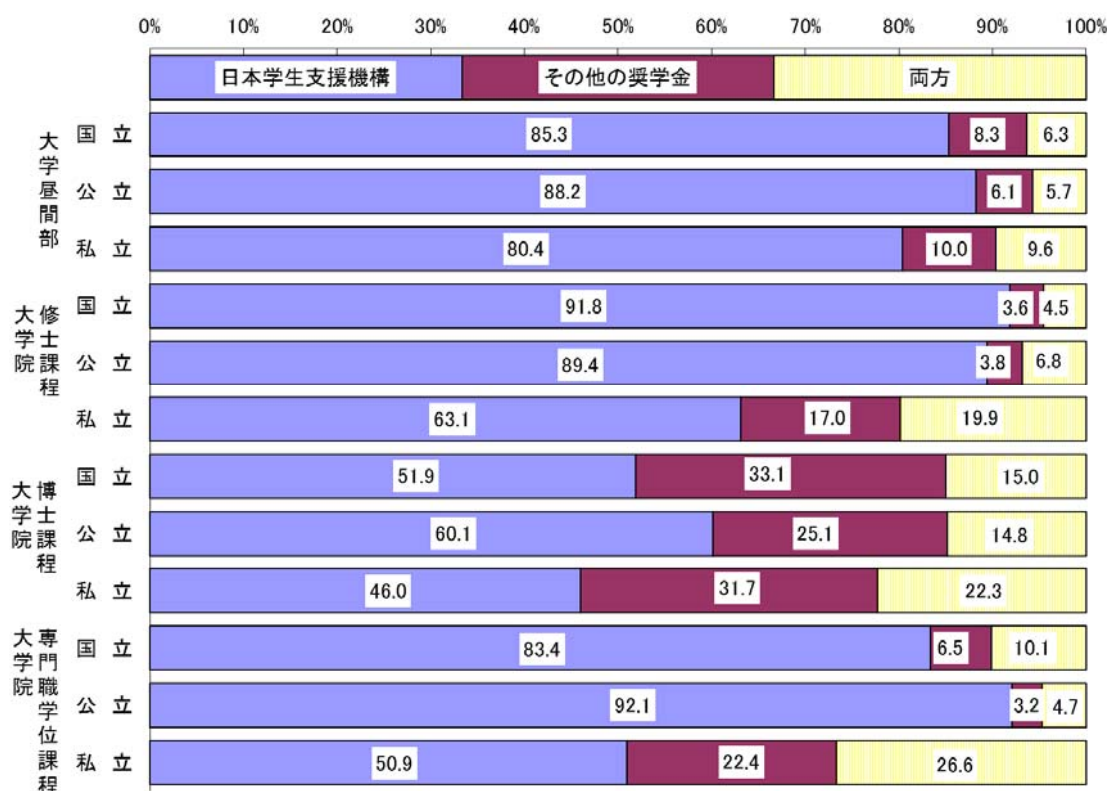
一方、日本学生支援機構以外の奨学金受給者（日本学生支援機構の奨学金と両方を受給している者を含む）の割合は、私立が19.6%と最も高く、以下国立14.6%、公立11.8%の順となっている。

## ②大学院

日本学生支援機構の奨学金受給者の割合は、修士課程では国立が最も高く、96.3%となっている。博士課程と専門職学位課程では公立が最も高く、それぞれ74.9%、96.8%となっている。

一方、日本学生支援機構以外の奨学金を受給している者の割合は、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれも私立が最も高く、それぞれ36.9%、54.0%、49.0%となっている。

第12図 奨学金の種類別・設置者別受給状況



## 6. 居住形態別・地域別通学時間 (Q表)

### ①大学昼間部

居住形態別にみると、自宅通学者の片道通学時間は約67分となっており、学寮通学者の約15分、下宿等通学者の約17分を大きく上回っている。

地域別にみると、東京圏は約57分、京阪神は約53分で、その他の地域の約34分に比べ通学時間が長くなっている。

### ②大学院

居住形態別にみると、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれも自宅通学者の片道通学時間は、学寮通学者や下宿等通学者の通学時間を大きく上回り、それぞれ約66分、63分、64分となっている。

**Q表 居住形態別・地域別通学時間(片道通学時間)**

(単位：分)

区分			自宅	学寮	下宿、アパート、 その他	平均
大学 学部	昼間部	東京圏	75.2	20.7	25.2	57.0
		京阪神	73.0	16.9	17.8	52.9
		その他	57.4	10.2	12.9	33.8
		全 国	67.4	14.9	16.9	45.0
大学院	修士課程	東京圏	73.5	24.9	25.3	52.6
		京阪神	73.3	14.7	18.4	43.4
		その他	53.9	9.1	13.4	27.0
		全 国	65.5	13.1	17.1	37.9
	博士課程	東京圏	68.4	26.3	30.7	50.0
		京阪神	63.7	19.7	20.7	38.9
		その他	58.8	13.4	21.7	36.7
		全 国	63.2	17.7	24.0	41.4
	学位 課程 専 門 職	東京圏	65.1	17.6	33.4	51.0
		京阪神	72.0	4.9	17.0	45.3
		その他	54.1	12.1	14.7	33.8
		全 国	64.0	11.8	23.2	44.6

(注) 「東京圏」とは、東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県をいう。  
「京阪神」とは、京都府・大阪府・兵庫県をいう。

**7. 設置者別週間平均生活時間 (R表)**

大学昼間部について週間平均生活時間をみると、設問項目のうち、「睡眠」を除くと一週間の生活時間の中で最も多く費やすのは「娯楽・交友」、次いで「大学の授業」となっている。

設置者別にみると、国・公・私立のいずれも「娯楽・交友」が最も多く、その時間は約 21～23 時間となっており、大きな差はみられない。

**R表 設置者別週間平均生活時間**

(単位：時間)

区分			大学の授業	大学の授業の 予習・復習	大学の授業 以外の学習	部活動・ サークル活動	アルバイト・ 定職	娯楽・交友	就職活動	睡眠
大学	昼間部	国立	17.81	10.92	6.13	6.14	8.45	22.94	0.64	47.18
		公立	18.75	9.64	5.54	4.64	10.51	21.73	1.08	46.37
		私立	18.49	7.15	4.54	6.23	10.69	21.38	1.24	44.98
		平均	18.39	7.93	4.87	6.13	10.29	21.67	1.12	45.43

(注)平成 24 年 11 月における不特定な一週間を調査。

㉓ 表 居住形態別・設置者別の学生生活費

区分	自宅		下宿、アパート、その他		全居住形態平均	
	学費	生活費	学費	生活費	学費	生活費
国立	732,200円 (2.4%)	435,800円 (17.7%)	648,000円 (2.2%)	1,147,400円 (6.6%)	673,700円 (2.6%)	890,200円 (8.2%)
公立	734,500 (0.8%)	421,100 (18.8%)	643,700 (0.8%)	1,072,200 (7.0%)	682,100 (1.2%)	790,100 (8.0%)
私立	1,328,600 (0.6%)	434,600 (16.7%)	1,336,600 (1.1%)	1,074,400 (3.3%)	1,319,700 (0.2%)	657,500 (6.2%)
平均	1,245,900 (0.8%)	434,200 (16.9%)	1,090,100 (0.3%)	1,095,000 (4.5%)	1,175,500 (0.5%)	704,600 (6.7%)
国立	707,000 (0.4%)	521,000 (14.8%)	595,100 (△1.6%)	1,252,100 (△0.7%)	624,000 (△1.3%)	1,013,900 (1.3%)
公立	711,200 (△4.2%)	565,200 (7.9%)	648,200 (△3.3%)	1,227,800 (△3.7%)	676,500 (△3.7%)	887,400 (△1.8%)
私立	1,124,400 (1.0%)	545,900 (12.1%)	1,028,800 (△2.3%)	1,264,900 (△2.7%)	1,082,200 (△0.4%)	846,800 (3.0%)
平均	913,000 (△0.4%)	536,500 (12.8%)	708,800 (△2.6%)	1,254,200 (△1.4%)	788,100 (△1.8%)	947,600 (1.9%)
国立	769,100 (△5.1%)	941,700 (18.2%)	598,900 (△10.6%)	1,631,700 (3.3%)	646,400 (△8.9%)	1,404,500 (5.2%)
公立	779,200 (△5.9%)	1,034,700 (23.5%)	711,500 (△6.0%)	1,718,100 (6.2%)	731,500 (△6.1%)	1,377,700 (9.0%)
私立	1,014,000 (△7.6%)	946,000 (14.9%)	883,800 (△4.8%)	1,792,900 (2.0%)	941,800 (△6.6%)	1,390,800 (5.8%)
平均	847,700 (△6.6%)	949,400 (17.5%)	660,700 (△8.9%)	1,667,600 (3.1%)	720,600 (△8.2%)	1,399,700 (5.5%)
国立	895,500 (△6.4%)	655,300 (14.5%)	816,500 (△2.4%)	1,335,800 (△0.9%)	832,600 (△5.1%)	1,071,500 (4.7%)
公立	927,200 (8.6%)	857,700 (71.4%)	672,400 (△2.8%)	1,293,900 (1.9%)	747,400 (△0.7%)	941,800 (13.6%)
私立	1,427,200 (△5.3%)	687,800 (10.8%)	1,310,700 (△4.0%)	1,397,300 (△7.5%)	1,367,600 (△5.3%)	1,006,400 (0.9%)
平均	1,279,900 (△5.4%)	685,600 (13.3%)	1,095,600 (△4.1%)	1,370,000 (△4.9%)	1,168,600 (△6.0%)	1,025,700 (2.6%)
合計						
国立						
公立						
私立						
平均						
国立						
公立						
私立						
平均						

(注) ( ) は、平成22年度調査からの伸び率である。

